

授業科目 NO. 213 疾病・治療論Ⅶ

: 小児・産婦人科系

Clinical Medicine VII
: Pediatrics, Obstetrics, and Gynecology

授業の形態 : 講義

単位数(時間数) : 1単位(15時間)

開講年次・学期 : 2年次・後期

必修・選択の別 : 必修

キーワード : 婦人科疾患、周産期、発達、病態生理、症状、診断、治療、器
官発生学 新生児外科 小児外科

1 金沢医科大学看護学部の到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標 (GIO)

小児に特徴的な疾患の臨床症状、診断、治療を理解する。また、周産期に発生する様々な障害、および女性特有の疾患の臨床症状、診断、治療を理解する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 妊娠から産褥までの経過、およびその過程で生じる障害の病態生理、症状、検査、診断、治療法と予防法を理解できる。(②)
- (2) 妊娠期から産褥期の特徴をふまえ、正常および正常から逸脱した対象に対する看護方法を理解できる。(②)
- (3) 婦人科系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療法と予防法を理解できる。(②)
- (4) 小児の成長と発達を理解できる (①②)
- (5) 小児に特徴的な疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療法と予防法を理解できる。(①)
- (6) 正常小児の発達を理解する (①)
- (7) 疾病の病因を理解し、説明できる (②)
- (8) 日常小児外科疾患を理解する (③)
- (9) 発展途上国の小児医療を理解する (⑤)

3 学習内容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	95%
実習成績	%
レポート	%
授業態度	5%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

【内訳】

小児外科学：定期試験 8 %、授業態度 5 %

小児科学：定期試験 40%

産科学：定期試験 47%

5 教育担当者

科目責任者：藤田 智子

教 授 岡島 英明 (小児外科学)
 講 師 藤田 智子 (医科学)
 講 師 佐藤 仁志 (小児科学)
 助 教 藤澤 麗子 (小児科学)
 助 教 森河 万莉 (小児科学)

6 ナーシングガイド

准 教 授 山崎 智里 (母性看護学・助産学)

※ナーシングガイドとは、疾病・治療論の初回授業時に、科目全体の構成および看護系科目との関連を、学生に 10 分程度で説明する役割を担う看護系教員のことをいう。

7 教 科 書

- 1) 末岡浩他 (著)：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器、医学書院
- 2) 落合慈之 (監修)：婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社
- 3) 有森直子 (編)：母性看護学Ⅱ 周産期各論、医歯薬出版
- 4) 奈良間美保他 (編)：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院
- 5) 奈良間美保他 (編)：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院
- 6) 佐地勉他 (編)：ナースの小児科学、第 6 版、中外医学社

8 推薦参考書

- 1) 井上裕美他（監修）：病気が見える vol.10 産科、Medic Media、
- 2) 井上裕美他（監修）：病気が見える vol.9 婦人科・乳腺外科、Medic Media
- 3) 前原澄子（編）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ、中央法規
- 4) 前原澄子（編）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ、中央法規
- 5) 原 寿郎（監修）：標準小児科学第9版、医学書院
- 6) 上野 滋（監修）：標準小児外科学第8版、医学書院
- 7) T.W.Sadler（著）：ラングマン人体発生学、第11版、メディカルサイエンスインターナショナル

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前学習・事後学習として計180分程度必要です。

産科学：行動目標を理解し、教科書内容を精読すること。日頃から予習・復習しておくこと。

小児科学：教科書の該当部位について予習しておくこと。

小児神経疾患、染色体異常症、小児特有の感染症、糖尿病、白血病、ネフローゼ、食物アレルギー、気管支喘息、新生児、先天性心疾患、川崎病
各授業が終わったら配付資料に書かれていることを復習する。

小児外科学：事前学習は特に必要ありません。

事後学習については授業の資料ならびに教科書、参考書で疾病の病態の理解をしてください。インターネットなどの情報は監修が入っていないため間違いが少なからずあるので、あまりお勧めできません。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

小児科学：試験に関しては、試験後に配付する解答等で適宜フィードバックを行う。

11 履修上の注意事項

特になし。

12 オフィスアワー等

※担当教員へ質問等がある場合、事務課に連絡、相談した上で行動すること。

藤田：質問は授業時や授業後に受け付けます。また、メールでも受け付けます。

小児科学：質問等がある場合は、小児科秘書までご連絡ください。

（連絡先：内線 23225、メールアドレス; pediat@kanazawa-med.ac.jp）

小児外科学：授業内容に関する質問、問い合わせについては小児外科・医局までご連絡ください。

（内線:6539）ないしは医局にメール（メールアドレス: pedsurg@kanazawa-med.ac.jp）

第2学年

疾病・治療論Ⅶ：小児・産婦人科系

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1(0.5)	10月07日(月)	4	講義	ホルモン、良性腫瘍、性感染症		医科学,母性看護学	藤田講師,山崎准教授
後	2	10月28日(月)	4	講義	婦人科悪性腫瘍		医科学	藤田講師
後	3	11月08日(金)	4	講義	正常・異常妊娠		医科学	藤田講師
後	4	11月25日(月)	4	講義	正常・異常分娩		医科学	藤田講師
後	5	10月21日(月)	4	講義	てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、神経筋疾患、染色体異常症、小児特有の感染症		小児科学	佐藤講師
後	6	10月23日(水)	4	講義	白血病、ネフローゼ、食物アレルギー、気管支喘息		小児科学	藤澤助教
後	7	10月30日(水)	4	講義	新生児、先天性心疾患、川崎病、糖尿病		小児科学	森河助教
後	8(7.5)	11月06日(水)	4	講義	小児外科疾患		小児外科学	岡島教授